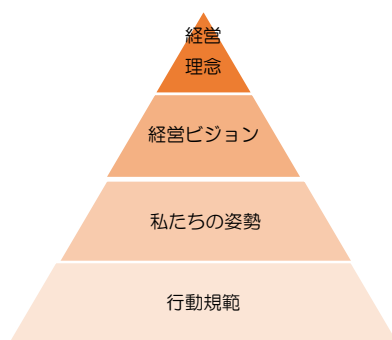


企業名： 株式会社タムロン

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指す姿が理解できるか

株式会社タムロン（以下タムロン）は、経営理念として「光を究め、感動と安心を創造し、心豊かな社会の実現に貢献します。」を一貫して掲げている。これは統合報告書においても1ページ目1文目に記されていたり、何度も繰り返し記述されていたりと誰にとっても分かりやすい。また、この理念を達成するためのステップとして、段階的に中目標を定めていてそれを図で提示しているため合理的な印象を受ける。そのステップを、以下の図表1にまとめる。



図表 1

経営ビジョンとしては「光とともに未来へ」、”私たちの姿勢”つまり社員の姿勢として「誠実」「挑戦」「創造」の3項目を目標として定めている。経営理念、経営ビジョンは抽象的な印象を受けるが、それらの実現のための具体的な策を、”私たちの姿勢”や行動規範として提示している。ブランドスローガンとして「Focus on the Future 心豊かな社会の実現」も設定されていて、持続可能な地球環境・持続可能な社会の実現に加え、タムロン事態の持続的成長を目指している。このほかにも、「Vision21」など様々な目標が定められていて軸が複数存在しているため、もう少し端的に目標設定をした方がわかりやすい気がするが、将来のビジョンをより合理的に伝達するためには仕方がないと感じる。全体的にみると、企業全体としての目標は理解しやすいといえる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

タムロンの強みとして、企業の利益だけでなく持続可能な社会の実現を目指す社会的利益も追求しているという、サステナブルな企業イメージで挙げられる。言うまでもないが、売り上げは企業のイメージに大きく左右される。技術面での強みは、高精度な光学技術を生かし、人々に「感動」と「安心」を与えるような製品を提供することにある。当社の強みである 極小径レンズや

薄膜技術を生かして、従来の光学設計や機構設計だけでなく、近年急激な成長がみられる医療分野にも参入している。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

前項目でもあるように、当社の競争優位性は、当社の経営理念である「光を究め、感動と安心を創造し、心豊かな社会の実現に貢献します。」ということもできる。この理念の達成のために経営ビジョンの「光とともに未来へ」をいうものを掲げていて、さらにその下位目標として従業員のありべき姿を定めている。中期経営計画として「Vision23」も2021年よりスタートしている。次期中期経営計画に向けて、「飛躍に向けた投資・リソース配分の実行」と「持続成長可能な事業基盤の構築」を基本方針として、売上高、営業利益の目標数値を定めている。長期的な目標を定めて、それに沿った現実的な短期目標を定めているという点で、持続性を確保しているといえるであろう。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

当社では、持続可能な事業を行う為のステップとして人材育成を挙げていて、社員1人1人の人材を資本として捉えて、様々なプログラムを展開している。例として、「ミッションリーダーシップ制度」を導入し、リーダーそれぞれに明確なミッションを与え、その達成を目指していく中で、リーダーとしてふさわしい人材を育成している。また、多様な視点を取り入れる目的のもと、女性やシニア層、キャリア採用者を積極的に雇用する姿勢を示している。2021年からはフレックスタイム制を導入して、ワークライフバランスを意識している。男性の育児休業の取得も推奨していて、2021年には53%とやや停滞しているものの、2020年には70%以上の取得率を出している。人材は資本である、という考え方のもと、働きがいのある職場を目指す取り組みが多くみられ、社員のポテンシャルを十分に発揮できるような職場環境が整っているといえるだろう。優秀な人材を長期的に雇用することが可能であるという点では、会社にとっても良い影響を及ぼしているであろう。上記の理由から、この会社は人的資本の価値向上を達成できる環境であると考えられる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

タムロンの報告書は図が多く、一目で内容がイメージしやすいように作成されている。グラフもところどころに挿入されており、文字の羅列よりもわかりやすい。改善点としては、同じような内容のものが数か所ではばらばらで記述されていることである。やや言い回しが似ている部分が多く、これらが同じものを指しているのか、あるいは別のものなのかということがややわかりにくい点があった。その点が改善されれば、とても分かりやすく説得力のある統合報告書となるだろう。